



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/23 (月)	+ 200	+ 74,500	+ 74,700	国庫短期証券発行償還 (3M・1Y) 国債償還 (5年・10年・20年) 各種財政資金の支払い	国債補完供給 社債等買入	3100 -100	日: 連合、26年春闘の第一回答集計結果 欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (3月)
3/24 (火)	+ 1,000	+ 6,000	+ 7,000				日: CPI (2月)
3/25 (水)	トン	+ 22,000	+ 22,000	国債発行 (40年) 各種財政資金の支払い			日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (1月22・23日分) 米: 経常収支 (4Q) 欧: ラガルドECB総裁の講演 (フランクフルト)
3/26 (木)	▲ 1,000	+ 8,800	+ 7,800				日: 基調的なインフレ率を捕捉するための指標
3/27 (金)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000	流動性供給			

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比5兆7900億円減少の440兆4400億円から始まった。その後、国債発行や国債買入オペ、貸出増加支援オペのエンド、各種財政資金の支払い等の要因により増減し、19日は443兆1,800億円 (速報) で越週した。無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まった。その後も概ね横ばいで推移した。ターム物は1W~3W物0.721%~1.030%のレンジ、1M~3M物0.985%~1.070%のレンジで出合が見られた。来週の予定は、国内では24日にCPI (2月)、25日に日銀金融政策決定会合議事要旨 (1月22・23日分) の公表、海外では23日にユーロ圏消費者信頼感指数 (3月)、25日に米経常収支 (4Q) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.729
1M	0.90 ~ 1.10
2M	0.90 ~ 1.15
3M	1.00 ~ 1.20
6M	1.05 ~ 1.30

<レポ>

足許GCは週を通して+0.75%~+0.755%の狭いレンジで取引された。買入れオペや短国の発行等の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470~480回債、5年155~182回債、10年356~371、378~381回債、20年110~130回債、30年86~88回債な

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70台
CP 3M	1.0 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,910億円で、週間償還額の2兆70億円を大幅に下回った。発行残高は、先週末時点の25兆4,167億円から、3月18日時点で25兆4,125億円へと減少した。発行市場では、電気機器・卸売業・不動産業をはじめとする業種で大型の発行案件が見られた一方、償還に対するリファイナンスを行わない発行体が多かった。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.90%台から1.1%台程度、3ヶ月物で1.0%台から1.2%台と、幅広い水準での取引が確認された。来週の償還額は、約5兆3,000億円となっている。発行市場は、引き続き決算期末に向けた有利子負債圧縮が進むことから、大幅な償還超が見込まれる。3月18・19日の日本銀行金融政策決定会合で、市場の予想通り政策金利は0.75%で据え置かれた。発行レートは、次回利上げのタイミングを慎重に見極める動きから、引き続き水準を探る展開が続くだろう。

<TDB>

17日の1Y (第1369回債) の入札は、最高落札利回り1.0642% (前回債1.0482%)、平均落札利回り1.0550% (前回債1.0411%) となった。18日の3M (第1370回債) の入札は、最高落札利回り0.8199% (前回債0.7796%)、平均落札利回り0.8070% (前回債0.7740%) となった。来週の入札は27日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。